

2008年11月14日

外国人研究者シンポジウム ー早稲田大学の研究・生活環境

開会のご挨拶：堀口健治、早稲田大学副総長

本日は、大変お忙しい中、国際課・国際研究推進本部共催の「外国人研究者シンポジウム」にお集りいただきまして、誠にありがとうございます。早稲田大学を代表してご挨拶を申し上げます。

本学には、インターナショナル・スカラー、つまり国際的に活躍する海外からの研究者の方々が、年間約 350 名おいでになります。また、大学院には、現在約 1200 名の留学生が在籍しています。まずは、本日お集りいただいている皆様に、早稲田大学を研究・教育・学びの場として選んでくださったことを、心よりお礼申し上げたいと思います。

さて、本日のシンポジウムの目的は、インターナショナル・スカラーの皆様をお招きし、研究者の眼から見た早稲田大学における研究や生活の環境、また本学への要望などについて率直に語っていただき、議論をすることにあります。

昨年、本学は、創立 125 周年を迎えました。今後の方向性といたしまして、日本の大学であることを超える、グローバルユニバーシティとしての「WASEDA」を構築することを目指しています。そこでは、多様な学問・文化・言語・精神が活発に交流する大学の姿を思い描いています。グローバル化が進む現代社会においては、政治、経済、環境などあらゆる分野にまたがり、国境を超えた多くの問題が山積しています。これらの問題の解決のためには、知の創出の場である大学が、積極的に、グローバルな知を創出していくことが、不可欠とっております。このような構想のもと、本学では、研究の更なる国際化を実現するために、国際的な研究者の交流をこれまで以上に促進していきたいと考えております。

しかし実際には、研究者が、国を離れて、異国で研究に取り組むことは、それほど簡単ではありません。さまざまな困難が伴います。例えば、研究環境の違い、言葉の違い、資金、ご家族の問題、住まい、文化的な相違など、研究と生活の両方の面において、多種多様な困難を乗り越える必要があるかと思えます。皆様も様々なお考えやご決断のもとに、本学を選んでくださっているのだと思います。だからこそ、わたくしどもは、皆様に直接ご意見を伺うのが一番と考え、この会を企画した次第です。そして、皆様の研究が素晴らしい成果を産み、かつ、早稲田大学での生活を心から楽しんでいただけるような環境づくりを、積極的に推進していきたいと考えています。

また本日は、本学と密接な関わりのある自治体である、新宿区より、「しんじゅく多文化共生プラザ」の石川所長においでいただいております。石川所長には、新宿区が多文化共生に向けた取り組みについて、お話をいただく予定です。新宿区は、全国の自治体の中でもとりわけ、多文化共生に率先して取り組んでいらっしゃる、先進的な自治体です。石川所長のお話が、皆様が暮らすコミュニティへの理解を促進することを、確信する次第でございます。

本日は、率直なご意見をいただきたいと思います。どうぞ遠慮なさらずに、研究活動や日常生活で困っていること、そしてもちろん早稲田大学の良い面についても、大いに議論していただければ幸いです。わたくしどもは、皆様からのご意見を、真摯に受け止め、改善が必要なところは、できる限り改善に向けて努力していきたいと考えております。加えまして皆様には、皆様自身の研究活動の更なる充実のためにも、御知恵を多いに貸していただきたいと思います。そして、本学を、更に良い大学にしていく方法を、一緒に考えてくださることを、お願い申し上げたいと思います。